

# 自殺対策基本法20周年に向けて： 学際的検討と 現場の経験を踏まえての政策提言

## 趣旨

日本の自殺死亡率は1998年に急増し、2006年の自殺対策基本法による施策の効果もあって2009年から減少に転じたが、2016年以降は減少が鈍化している。また、近年の小中高生の自殺の増加は大きな社会問題である。

自殺関連行動は、個人的、社会的、心理的、文化的、生物学的そして環境的因素が互いに絡み合う複雑な現象である（WHO、2014）。自殺死亡の更なる減少には、学際的研究と地域、現場の経験の積極的対話が必要である。共同研究集会のプログラムを、(1) 自殺対策とは何か、(2) 自治体の主体性・独創性を活かした自殺対策の推進、(3) 子どもの自殺予防、(4) 政策提言のための円卓対話とし、その成果を政策提言にまとめる。

10:00-10:10	開会の挨拶	1/30(金)   1日目
10:10-12:10	(1) <b>自殺対策とは何か</b> (企画中)	
13:00-17:00	(2) <b>自治体の主体性・独創性を活かした自殺対策の推進</b>  自治体の実践報告 特別講演「包摂社会の実現と地方自治」片山善博（大正大学地域構想研究所所長） 指定討論／南島和久（龍谷大学政策学部教授） 意見交換	
9:00-12:30	(3) <b>子どもの自殺予防</b>  国の取組について／星 匠哉（子ども家庭庁支援局総務課自殺対策室） 公衆衛生の立場から／野村恭子（秋田大学大学院医学系研究科衛生学・公衆衛生学講座／日本公衆衛生学会メンタルヘルス・自殺対策委員会） 精神医学の立場から／太刀川弘和（筑波大学医学医療系災害・地域精神医学） ジャーナリストの立場から／渋井哲也（フリージャーナリスト）ほか	1/31(土)   2日目
13:30-15:30	(4) <b>政策提言のための円卓対話</b> (企画中)	
15:30-16:00	追悼と感謝／小川有閑（蓮宝寺／大正大学／自死・自殺に向き合う僧侶の会）ほか	
16:00-16:10	閉会の挨拶	

2026年

1月30日(金) 10:00-17:00

1月31日(土) 9:00-16:00

統計数理研究所（東京都立川市緑町10-3）

開催方法：現地及びZoomミーティングのハイブリッド開催

定員：現地50人／Zoomミーティング200人

お問い合わせ：研究代表者 竹島 正（大正大学地域構想研究所）

t\_takeshima@mail.tais.ac.jp

参加申込は  
こちらから



<https://forms.gle/NQ SJ2UvrMZUrSEwU6>